調　査 Ⅲ

１９８１年に種苗生産し、支場内の屋内水槽で中間育成していた殻長0.４６～2.２０cm、平均1.０４±0.3cmのヒメジャコ稚貝を１９８２年（昭和５７年）７月８～１０日にかけて、八重山漁業協同組合員の協力を得て、川平湾へ試験放流した。放流方法は「埋め込み法」を用い、穴は主にハマサンゴ上に放流日以前の７月５～７日に堀った。放流個体数は、2,１５３個体であった。７月２４日の残存数の調査では２０６個体が残っていた（9.6％）。貝と穴との大きさの関係、放流場所等の主に技術的な問題点が残った。

調　査 Ⅳ

建築用ブロック（縦１９×横３９×高さ１０cm）の上に厚さ６～７cmのセメントを付着させ、アク抜き後、穴を開け、種苗生産した殻長1.２５～2.１０cm、平均1.７１±0.２１cmのヒメジャコ稚貝をその穴に埋め込み、１９８１年６月に川平湾へ試験放流した。

放流数は５０個体で５個のブロックに１０個体づつ埋め込んだ。１９８２年８月の調査では残存数は１５個体（３０％）であり、大きさは2.１５～4.０５cm平均3.33±0.58cmであった。

また、同様な方法で、１９８２年１０月１２日に、ブロック３０個に殻長0.６０～2.０２cm、平均1.３２±0.３４cmのヒメジャコ稚貝を埋め込んだ。陸上水槽で養成の後、１１月１６日に八重山漁業協同組合員の協力を得て、保護水面区域外に試験放流した。放流個体は２９７個体であった。

4.　シャコガイの生息状況調査

方　法

石垣島周辺の大型シャコガイの生息状況を調査し発見された個体はすべて採集した。調査は1982年５月18、19日、６月２日に、図３に示した平野、明石、白保の順に行なった。調査時間は１地点２時間３０分から３時間３０分で、人数は２～４人で、観察はシュノーケリングで行なった。

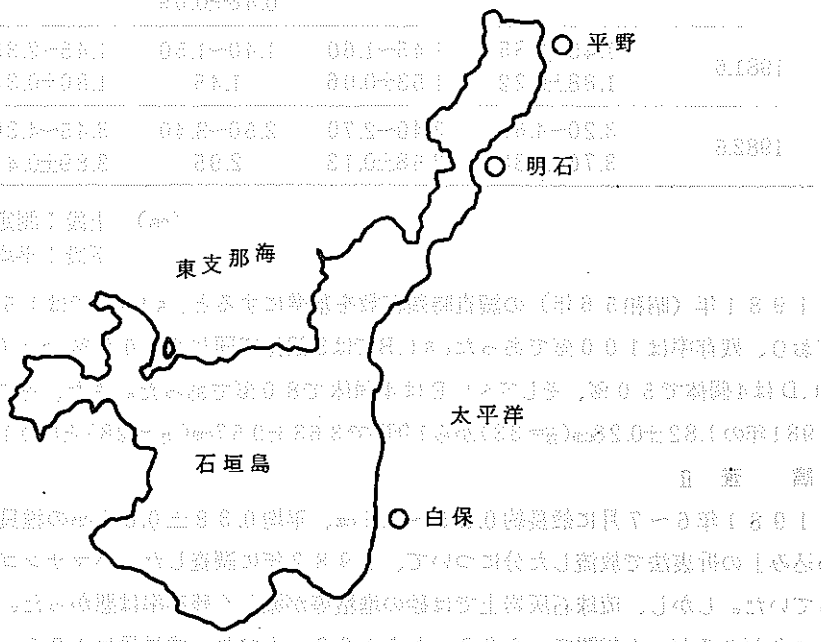

図３　シャコガイの生息状況調査地点